

山科盆地を歩いてみよう!

北ブロック 三条通以北



山科駅前通り (三条通から北を望む)

京津国道(三条通)から山科駅へと延びる駅前通り。左側に公設市場がありました。現在はRACTO山科に替わっています。「これは優かしいですね。ちょうどこの頃は、左側の角の家に住んでました(井上さん)」(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



昔

今

京津国道(三条通、西から東を望む)

右の写真は、上の写真的駅前交差点から少し東へ移動した位置から、京津国道(三条通)の東方を写したもの。道幅は広く、歩道も学生が広がって歩けるほど立派です。現在は立ち並ぶ建物のために、東の山がわずかしか見えません。(昭和25年頃、竹鼻竹ノ街道町)



エリアコラム 街道を歩く 東海道



1739年頃、木舟正准が東海道の改修工事の際に、旅人の衛護を兼ねて、船水設備を作りました。現在は飲み水には適しません。写真是昭和45年頃、日ノ岡坂町。

四ノ宮地蔵廟

六地蔵寺の一つ地蔵院前、南側の商店(昭和30年頃、四ノ宮駅東口)。大連れて下駄に前掛け姿の女性をはじめ、圓のせっぽう着姿の女性、商店には三リキやコーラの看板、アイスの冷蔵庫などが見られていきました。現在洛東高校にある車石▲

35-002

4-004



疏水沿い(牛尾山方面、東南を望む)

右の写真は、御陵付近の疏水が、大きく南へ突き出たカーブの辺りから東南方面を写しています。山科では昭和30年頃から宅地化が始まり、すでにこの頃には民家が密集しています。同場所は現在、木々が生い茂り、建物が邪魔をして撮ることができず、四ノ宮の疏水沿いから東南方面を撮っています。(昭和41年、御陵 天徳町から)

1-012



昔

19-017



今

疏水諸羽ダム(現疏水公園)

四ノ宮船溜から安朱間の第1疏水は、諸羽トンネルが開通する昭和45年まで、山に沿って流れていました。現在のようにフェンスはなく、水泳を楽しむ姿もよく見られました。明治時代に遡ると、船運や遊船で御光を浴びていました。トンネルの開通と一緒に埋め立てられ、現在疏水公園として区民のいごいの場となっています。(昭和40年頃、四ノ宮柳山町)



昔

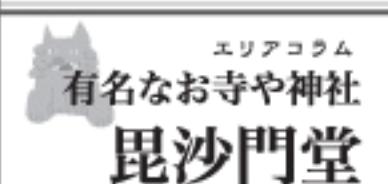
30-004



今

御陵黒岩付近から(南東を望む)

御陵の疏水沿いを北西方面へ続く山へ分け入った途中からの見晴らしと思われます。背景に音羽山、左に安朱の山々が見え、疏水はその裾をゆっくりと流れています。同場所を探して山道を登りましたが、疏水はよく見えず、同方向を写したところ、昔の写真是右手前に見えている山から撮ったようです。山科の都会化の様子が伺えます。(明治40年頃、御陵黒岩)



エリアコラム

有名なお寺や神社

毘沙門堂

毘沙門天を本尊とする天台宗の門跡寺院。「毘沙門さん」と親しまれ、正月の初詣に始まり、節分の豆まき、立派な枝垂桜を愛する花見、境内が錦に染まるもみじ狩りと、1年を通して区民の生活にうるおいを与えてくれるお寺です。書院のひすみ絵も見ものです。写真是昭和45年頃、安朱稻荷山町。



4-010

エリアコラム 由緒ある歴史 天智天皇陵

天智天皇は、645年に大化の改新で中臣鎌足とともに蘇我氏を滅ぼした中大兄皇子その人です。大津に都を遷した後、山科の地へ廟の角や墓草などを求める「葉彌」に防れたといいます。671年に天皇はなくなり、壬申の乱で御陵造営は一時中断となりましたが、700年頃に天智天皇陵が完成しました。写真是昭和45年頃、御陵上御宿野町。



4-021